

研究員 NOW！！ No.2～ 長期研修を終えて～

植草学園大学の梅澤真一教授、広島大学の草原和博教授、宮崎大学の吉村功太郎教授、熊本県合志市立西合志東小学校の村上春樹主幹教諭を訪問しました。社会的事象の意味を捉えたり、社会に見られる課題の解決策を合理的に判断したりするための授業づくりの在り方について御指導いただきました。どの先生方からも共通して指導いただいたことは、立場や判断基準を子どもたちにとって分かりやすいものにして共通理解を図ることと、そのための発問が大切だということです。長期研修で、先進的な研究をしている方から直接話を聞いたことで大きな学びになりました。今回得た学びを基に、よりよい授業をつくりたいと思います。 【東桜小 春野 裕介】



東北学院大学の佐藤正寿教授、白百合女子大学の中田正弘教授、関西学院初等部の宗實直樹教諭、熊野町立熊野第一小学校の中村祐哉教諭、広島大学の深谷達史准教授を訪問しました。宗實教諭をはじめ、多くの先生方からは、主体的に学習に取り組む態度を育てる上での留意点として、見えている事実から見えていない概念的知識へと広げる、問いのたせ方について御指導いただきました。深谷准教授からは、振り返りの際に成果を明示化して有効性を実感させることが大切であると教わりました。この長期研修で、現地に直接赴き、他県の教育に触れることができたことで、大きな刺激を受けました。 【上名古屋小 荒木 健太】

大妻女子大学の澤井陽介教授、東京学芸大学の大澤克美教授、筑波大学の藤田晃之教授、上越教育大学の阿部隆幸教授、佛教大学教授の小林隆教授、札幌国際大学の朝倉一民教授、札幌市立新光小学校の斉藤健一教頭を訪問しました。澤井教授からは、働きのつながりを考える意義について御指導いただきました。社会的事象の背景には見えない多様な働きがあり、そのつながりを認識することができるような仕掛けがあるとよいと教えていただきました。大澤教授からは、人の働きに焦点を当てた実践が積み重ねられ、子どもの職業に対する認識が広がり、深まっていくことの大切さを改めて教えていただきました。長期研修で学んだことを生かし、研究に取り組みたいと思います。 【栄小 坂野 寛明】





京都産業大学の佐藤賢一教授と京都教育大学の村上忠幸名誉教授、板橋区立高島第三中学校の中野英水副校長、早稲田大学の本田恵子教授、白百合女子大学の涌井恵准教授を訪問しました。先進的な問いづくりの方法や、子ども一人一人の特性を生かした授業デザインなどについて御指導いただき、子ども一人一人にとって学びやすい授業づくりを行うことが、よりよい社会科の授業につながるのだと実感しました。長期研修では、実践について具体的な御指導をいただくことができ、有意義な時間を過ごすことができました。研修での学びを第2次授業研究に取り入れていきたいと思います。

【橘小 田中 健一】

筑波大学の唐木清志教授、世田谷区立代沢小学校の横田富信教諭、広島修道大学の永田成文教授、愛媛大学の井上昌善准教授、大分大学の河野晋也准教授を訪問しました。社会参画意識を高める社会科学習の理論や外部人材の活用方法、ESDを取り入れた具体的な授業実践など、たくさんのことを御教授いただきました。先進的な研究について学ばせていただき感じたことは「子どもの変容を望む前に、自分自身の固定概念を見直すことが大切である」ということです。今一度、自分の研究が思い込みによる内容になっていないかを振り返り、新たな考えを柔軟に取り入れながら、今後の研究をよりよいものにしていきたいと思います。

【植田南小 岡 沙織】



岡山大学の川田力教授、横須賀市立久里浜中学校の菊池徹教諭、鳴門教育大学の梅津正美理事・副学長、上智大学の奈須正裕教授、八雲町立野田生中学校の川端裕介教頭を訪問しました。川田教授からはESDについて必要な考え方と、自己調整を行う上でフィードバックの大切さを学びました。どの先生方からも共通して指導いただいたことは、最終的な記述に対するルーブリックを子どもにしっかり提示することが大切だということです。この長期研修を行ったことによって、他地域の教育や研究に触れることができました。研修で学んだことを生かして、今後の授業づくりに取り組んでいきたいと思います。

【藤森中 長谷川 裕記】